

アルゼンチンから……タンゴ ……そして女性をつくったうたの数々

N.N. Estudio Ebisu 2 de abril, 2010

うた：峰 万里恵 ギター：高場 将美

I

1. ブエノスアイレスの歌

La canción de Buenos Aires

作詞：マヌエル・ロメーロ Manuel Romero

作曲：アスセーナ・マイサーニ Azucena Maizani

オレステス・クーファロ Orestes Cúfaro

*1932年、ポルテーニョ劇場にてマイサーニ初演。

ブエノスアイレス、遠くにいたときわたしのなぐさめはただひとつ、バンドネオンの泣く甘いタンゴのメロディだった。ブエノスアイレス、よその空の下でおまえを思っただけ息をつきながら、わたしの心はどれほど泣いたことか！ おまえのノスタルジックな歌を聴きながら。

ブエノスアイレス、タンゴの生まれたところ、わたしの愛する土地。わたしはおまえに捧げたい、歌に魂のすべてをこめて。そしてわたしの運命にお願いしよう。命の終わるとき、おまえのノスタルジックな歌をロズさむバンドネオンの泣き声を聞いていたい。

ブエノスアイレスの歌、おまえの奥底にはなにか、いつまでも生きつづけるものがある。ブエノスアイレスの歌、苦悩の哀歌、希望のほほえみ、情熱のすすり泣き。

それがタンゴ、ブエノスアイレスの歌。場末の生まれ、いま世界に君臨する。それがタンゴ、土地っ子のわたしの心のいちばん深いところに突き刺さって、いつもわたしといっしょ。

2. でもわたしは知っている *Pero yo sé*

作詞作曲：アスセーナ・マイサーニ Azucena Maizani *1928年、アストラール劇場にてマイサーニ初演。

夜になるとようやく、あなたは起き出して、一夜の愛人を探しに出かける。豪華なオープンカーのシートにゆったりと身を沈めた、エレガントな姿。

コリエンテス通りを、フロリーダ通りをめぐる、ペルシャの殿様よりも優雅な人生。豪華なスケジュールが山ほどいっぱい……階級とお金で、あなたにはなんでも手に入るだろう。

こんなにアヴァンチュールいっぱい、こんなに遍歴して、あなたは人生をただ快樂にだけ向けてきた。お金はいつでもあったから、気まぐれに欲しくなったものは、すべて勝ち取った。

アスセーナ・マイサーニ (1902-1970)



15才のころから婦人服店で働きながら、芸能人になりたくて、あちこちの劇場やキャバレーの楽屋に顔を出す。20才と少しのとき、ある芸能界のパーティでうたって才能を認められ、すぐ劇場出演して大成功。レコードも多く録音するようになる。1928年にヴァイオリン奏者ロベルト・セリージョと結婚・共演。ここにピアニスト、オレステス・クーファロを加えた3人で、31～32年にスペイン、ポルトガルで長期公演。

タンゴの歌いかたを発明した男性歌手カルロス・ガルデルが、もっとも愛し、敬意を払っていた歌手だった。

あなたが、こともなげに見せびらかす、その輝きは、ただの仮面だということを、人々は知らない。あなたの愚かな誇り高さが、みんなをうまくだましている。あなたはだれにも知らせたくない。

でもわたしは知っている、あなたには愛の悩みがあることを、こんなに女性を取り替えながら、忘れようとしていることを。

わたしは知っている。夜明け前に酒宴をあとにするとき、あなたは胸が押しえつけられるのを感じることを。愛する思い出で……そして、あなたは泣き出すのだ。

3. 瓦屋根の古い大きな家 *Caserón de tejas -vals criollo-*

作詞作曲：カトゥロ・カスティージョ *Cátulo Castillo* 作曲：セバ스티アーン・ピアーナ *Sebastián Piana*
*1942年発表、おそらく女性歌手リベルター・ラマールケが初録音。

ベルグラノー区……瓦屋根の古い大きな家……覚えていますか、お姉さん、歩道の上での数々のあたたかい午後のこと？……そのとき近くを通る汽車が、わたしたちのところに置いていった、古い追憶の数々——あのバラの木の、しとやかな姿の下に……。

ベルグラノー区……瓦屋根の古い大きな家……アルヒーベ（水くみ場）はどこに行った？ あなたの中庭たちはどこに？ 格子窓はどこに行った？

あなたはピアノに帰ってくるでしょう、わたしの年とったお姉さん。そして数々のメロディの中に、あの日々が生きてゆくでしょう、わが家の晴れた日々が。

甘い昼寝の時間におじいさんが話してくれた、あの

お話にあったように、暗いホールの小さなピアノがもどってくるでしょう、あのワルツの純粋なやさしさを、血として流そうと……

ワルツがふたたび命をもった！ ピアノの眠り込んでいた声たちの中で、そして、あなたの手のこまやかな魔術にひきよせられて、おじいさんのフロックコートが舞ってくるでしょう……

彼を呼んで……！ わたしたちは 遠いお話を生かしましょう。だって、あのベルグラノーの古い大きな家で——閉ざされた神秘を打ち破って——ママが私たちを呼んでいる……！

4. カントンド（歌いながら） *Cantando*

作詞作曲：メルセーデス・シモーネ *Mercedes Simone*
*1932年、シモーネ初録音。

わたしはもう、あなたのキスの甘い味を失い、ひとりぼっち、愛もなく世界をさまよう。ほかの幸せなくちびるが、わたしの愛情のすべてだったあのキスの、今は持ち主になっているだろう。

わたしには自分がどうなっているのか、わからない時がある。笑いたくなり、泣きたくなり、嫉妬し、あなたが帰ってこないことが恐ろしくなる。わたしは愛している。わたしにはどうしても止められない。

奇跡の処女マリア様、お許してください。わたしの中で生きているこの歌で、わたしはお願いします。わたしのものを持ってきてくださいと。あんなにすぐに、訳もなくわたしが失ってしまったものを。

この人生でこれほど愛することが罪ならば、わたしはひざまずいて許しを乞います。わたしはこんなに愛している、あなたの愛と触れ合わなかったら死んでしまうほどに。

歌いながら、わたしはあの人に上げた、わたしの心を、わたしの愛を。そして、あの人が行ってしまってから、わたしは痛みを歌う。

歌いながらあの人に会った。歌いながらあの人を失った。わたしは泣くすべを知らないから、歌いながら死んでゆこう。

5. イノセンシア（無心な子ども）

Inocencia

作詞作曲：メルセーデス・シモーネ *Mercedes Simone*
*1929年、シモーネ初録音。

あの家は悲しんでいる。お隣の奥さんが死んだ、胸の痛みいっぱい旦那さんと娘を残して。娘はくるしむ父親にこうたずねる。

「パピート、教えて、どうしてこんなに人がいるの？ どうしてみんな泣いているの？ あなたも泣いている。どうしてテーブルの上にあんなに花が？ ベッドはどこにいったの？ ママはどこ？

まあ、あんなにたくさんロウソクが立てられた。あ

の上には何があるの？ わたしは見たい。

わたしのマミータだ！ 呼んでよ、パピート、わたしと遊びましょうと言って。

マミータ、わたしはとでも眠たい。あなたの腕に抱き上げて、寝かせてください。パピート、呼んで。わたしの声は聞こえないみたい。マミータ、どうして来ないの？」



メルセーデス・シモーネ
(1904–1990)

ブエノスアイレス州の地方の小さな町で、店員などとして働くふつうの少女だったが、ギターをもって歌う男と結婚し、付き人などとして、偶然の成り行きで舞台に立ち大好评。1927年からブエノスアイレスに上京してソロ歌手に（夫パブロ・ロドリゲスはギター伴奏者）になり、レコードも録音し始める。

人気者になったのちに、発声などの音楽技術をあらためて学び、タンゴ以外のラテン・ポピュラー音楽もレパートリーに加えた。キューバなどラテンアメリカ各国の公演も成功。

哀れな無心な少女は悩みを知らない、この悲しい家庭の苦悩のことを知らない。彼女には理解できない、優しい母親がこの世を去って、もう帰ってこないことを。

夜になって、たくさんの人が来た。娘は泣きすぎて疲れきってしまった。愛するパパの両腕のなかで眠りこんだ。そのかたわらで、彼女のママータは安らかに横たわっていた。

6. ペカード・モルタル (地獄におちる罪) *Pecado mortal*

作詞作曲：アダ・ファルコーン *Ada Falcón*

*1930年、ファルコーン初録音。

きのう痛みが、あなたの扉を叩きに来たとき、そして世の中があなたの絶叫に背を向けるのを見たとき、わたしはあなたに手を差し伸べた。そして、きょうだいのように、住むところと屋根とパンを、あなたと分かち合った。

あなたと腕を組んだわたしは、あなたの救いだった。なぜなら、あなたの信じる心は、もう溺れ死ぬところだったから。そしてあれほどの逆境のさなかに、わたしの愛があなたに再び生きる気力を与えた。

きょう、あなたに黄金と快楽をくれる手は、明日は新しい愛を探しに行くだろう。そしてそのとき、きのうのように暴風があなたを、涙と痛みに押し込むだろう。

そのときになってあなたは、きょうあなたが恩知らずだったことを認めるだろう。そのときこそ、どんなにわたしが心やさしい女だったか知るだろう。

裏切りの亡霊たちが、あなたの寝台のまわりを回るだろう。そこであなたが許しをこいねがっても、もうむなしいこと。

わたしは、あなたの涙をふいた。わたしの心を、あなたに開いた。そしてわたしの愛情が、あなたの罪をつぐなった。

きょうあなたは、ほかの腕のぬくもりに向かって行く。苦しみもせず、わたしを置き去りにする。きのうあなたの冷酷な苦悩のなかに、わたしが愛の甘い慰めを与えたことを、あなたは忘れた。

永遠にわたしは、あなたに扉を開かず。わたしたちの物語は、もう死んだもの。でも、恩を忘れたあなたは、地獄におちる罪を負っている。最後には、あなたはその報いを受けずにはいられない。



アダ・ファルコーン
(1905–2002)

娘の運命はアーティストになることだと信じる神がかり的な母親に導かれて5才のときから舞台に立つ。20才でタンゴ歌手として初録音。1929年から、タンゴ楽団の指揮者でプロデューサーの大物フランシスコ・カナーロと共演で多数のレコードをつくる。ラジオ・劇場出演もつねに成功。個性あふれる歌と美貌で、たぶんタンゴ史上最高の(もしかしたら唯一の)《ディーヴァ》だった。

もともと神秘主義・隠遁の気質があったアダは、カナーロとの恋愛が終わった数年後の1942年に、俗世間から姿を消し、母親とともに修道女となった。

II

1. アリーセ *Alice*

作曲：エドゥワルド・アローラス *Eduardo Arolas* *1920年作曲。

ギターだけでおとどけます。アリーセ・レサージェ嬢 *Señorita Alice Lesage* に捧げられた曲です。

2. じぶんの土地に捧げるセレナータ *Serenata para la tierra de uno*

作詞作曲：マリーア・エレナ・ワルシュ *María Elena Walsh*

*1979年、女性歌手メルセデス・ソーサ初録音。

わたしは、ここに残っていたらじぶんが痛くなるから、でも出て行ったら死んでしまうから——こんなすべてのことがあるから、そして、こんなすべてのことがあるのに、愛するものよ、わたしはおまえの中で生きたい。

おまえのビダーラ (山歌) の礼儀正しさゆえに、おまえの太陽のスキャンダルゆえに、ジャスミンのあるおまえの夏ゆえに、愛するものよ、わたしはおまえの中で生きたい。



マリーア・エレナ・ワルシュ
(1930年生まれ)

22才のとき、歌とギターの女性デュオ《レダとマリーア》で、主にヨーロッパ各地の大学コンサートで、アルゼンチンのfolkloreやスペイン民謡を紹介する活動。20代の終わりごろから、子どものためのミュージカル(後にTV番組)の脚本・作詞作曲で最高の人気者になる。

その後、社会批判、都会人の感情などをもった、おとなのための歌もたくさんつくり、広く共感を呼んだ。1978年に歌手および作詞作曲をやめ、著述と文化普及活動に専念とのこと……。ブエノスアイレス名誉市民(85年)。



アルフォンシーナ・ストルニ
(1892-1938)

スイスのイタリア語圏に生まれ、4才のとき一家でアルゼンチン移住。19才でブエノスアイレスにひとり来て、商店の会計などで働きながら文学界の人たちと交わり、30才のころにはラテンアメリカの最高の女性詩人のひとりとして認められていた。モダニズムと前衛の中間の世代とのこと。いわゆるフェミニズムの運動、作家の権利を守る団体の活動にも貢献した。

私生活では、20才のとき男の子をもうけ(父親の名前は今日まで不明)大切に育てた。乳がん(手術したが後に広く転移)の後遺症、愛したウルグアイ人男性詩人の自殺などが直接的な原因で神経を病み、ついにはマルデルプラータ海岸で自殺した。

土曜の午後同地のペンションに宿を取り、別掲の詩『わたしは眠りましょう』を書いて、新聞に投稿し、月曜に崖から海に身を投げた。

幼い時代の言葉は、ふたりのあいだの秘密だから。おまえは、わたしの心が根を抜かれたとき、宿る場所を与えてくれたから……

わたしの昔の反逆ゆえに、わたしの痛みの年令ゆえに、終わりのない希望ゆえに、愛するものよ、わたしはおまえの中に生きたい。

おまえにギターの種をまくために、ひとつひとつの花の中に、おまえを大事に育てるために、そしておまえを傷つける者を憎むため、愛するものよ、わたしはおまえの中に生きたい。

3. アルフォンシーナと海

Alfonsina y el mar -zamba-

作詞：フェリクス・ルーナ Félix Luna

作曲：アリエール・ラミーレス Ariel Ramírez

*1969年、女性歌手メルセデス・ソーサ初録音。

海がなめるやわらかい砂の上を通して、あのひとの小さな足跡はもう帰ってこない。悩みと沈黙でできたただ1本の小道は、深い水にたどりついた。物言わぬ悩みでできたただ1本の小道は、海の泡にたどりついた。

神は知る、どの苦悩があなたについていったのか。どんな数々の古い痛みを、あなたの声がだまっていたのか。そのあとあなたは横たわる 海の巻き貝たちの歌声を子守り歌にして。海の暗い底で巻き貝がうたっている歌。

5人の人魚たちがあなたを連れてゆく、海草と珊瑚でできたいくつもの道を通して。そして燐光を放つ竜の落とし子たちが、あなたのそばで輪を作るだろう。そして水の住人たちが遊ぶだろう、すぐにあなたのそばで。

「ランプの光をもう少しだけ落としてください、乳母さん。わたしを平和に眠らせておいてください。そしてもし彼が呼んだら……彼に言って、アルフォンシーナはもう帰りませんと。そしてもし彼が呼んだら、わたしがいるとは決して言わないで、わたしは出て行ってしまったと言って」

あなたは去ってゆく アルフォンシーナ、あなたの孤独を連れて。どんな新しい詩をあなたは探しにいったのか？ 風と塩でできた古いひとつの声が、あなたの魂をこなごなにしていって、その魂をもっていく。そしてあなたは去る、あちらへ向かって、夢の中のように、眠りこんで、アルフォンシーナ、海を身にまもって。

わたしは眠りましょう

(前略)

わたしは眠りましょう、乳母さん、ベッドに寝かしてください。枕元にランプをひとつ置いてください、星座をひとつでもいい、あなたの好きなのを。どれもすてきです。少しだけ光を落としてください。

わたしをひとりにしておいて。あなたは草の芽が壊れる音が聞こえるでしょう……

(中略)

……ありがとう。ああ、お願いがひとつ。もし彼がまた電話してきたらもうかけないように言ってください、わたしは外へ行ったと言って……

4. ケ・セラ・デ・ティ (あなたはどうなっているのだろう)

Qué será de ti -canción guarania-

作詞：マリーア・テレーサ・マルケス *María Teresa Márquez*

作曲：デメトリオ・オルティース *Demetrio Ortiz*

*1952年、マルケス初録音。

あなたは、どうなっているのだろうか？ あなたの心の夢が、ついに枯れてしまったとき。そしてあなたが感じたとき——もう、人生が過ぎてゆきながら、あなたに苦悩を残していったことを。

それは、理解することの苦悩——わたしたちに愛が与えてくれる、あの信じる心なしには、なにもあり得ないと。

あなたにわたしのことを話すだろう、わたしたちが歩き回ってきた、すべての道たちが。そこでわたしたちが生きてきた時間をあなたに思い出させながら……。そしてあなたは、わたしの愛にノスタルジーを感じるだろう。あり得なかった愛が、帰ってくることを願いながら。

あなたは、どうなっているのだろうか？ あなたがひとりになったとき、そしてわたしのあこがれていたもののすべてを思い出したとき。

わたしの忠実な愛が、あなたといっしょにいるだろう。そしてあなたのがさを消すだろう。なぜなら、わたしの祝福の許しのなかに、あなたは平和を見つけるだろうから。

マリーア・テレーサ・マルケス
(1918年生まれ)

首都ブエノスアイレス生まれだが、少なくとも父親はパラグアイ、あるいはそこに隣接するアルゼンチン北東部の出身と思われる。つねに、これらの地域の、いわば先住民グアラニーの文化圏の音楽を専門にうたい、最高の評価を得た。もう長いあいだ、ブラジル南部(やはりグアラニー文化圏)に住んでいるらしい。



マリーア・テレーサ・マルケス(中央)
右はハーモニカの超絶名手ウーゴ・ディーアス、左はその妻で歌手のビクトリア・ディーアス(ボンボの超絶名手ドミンゴ・クーラの姉)

5. 下り坂 *Cuesta abajo*

作詞：アルフレード・レペーラ *Alfredo Le Pera* 作曲：カルロス・ガルデル *Carlos Gardel*

*1934年、ガルデル主演映画主題歌。

わたしは、この世で引きずってきた、今までそうであったことの恥ずかしさと、もうそうではなくなったことの痛みを。いくたびも、帽子のひさしの陰に隠れながらこみ上げる涙を、わたしはこらえることができなかった。

わたしは、運命が打ち砕きたがっている卑賤な民のように、数々の道を横切ってきた。わたしは弱かったかもしれない、盲目だったかもしれない。でも理解してほしい、愛することの勇気の価値を。

あのひとの足跡を追っていったゆえに、わたしは痛みのグラスで、疲れることなく飲んだ。でも、だれもわかっていなかった、わたしはすべてを与えたけれど、1回ごとに心のかげらを残しておいたことを。

いま坂道で悲しく、ひとりぼっちで、すでに打ち負

かされたわたしは、じぶんを告白したい。あの口は、わたしに捧げる愛を偽っていたのだけれど、あの魔法の両目ゆえなら、わたしはいつでも、もっと与えていただろう。

あのひとは、わたしにとって全人生だった。とある春の太陽のように、わたしの希望、わたしの情熱だった。あのひとは知っていた、わたしの哀れな心のちっぽけな喜びのすべては、この世界には入りきれないことを。

いま、転落の下り坂にいて、わたしは、過ぎ去った夢の数々を引き抜くことができない。わたしは夢見る、わたしが思い起こす過去のことを。わたしが泣く古い時。決して帰ってこない古い時。



6. 想いのとどく日 *El día que me quieras* -canción-

作詞：アルフレード・レペーラ *Alfredo LePera* 作曲：カルロス・ガルデル *Carlos Gardel*

*1935年、ガルデル主演映画主題歌。

わたしの夢をやさしく撫でるあなたのためいき。あなたの軽い笑い声は、歌のように、わたしの傷をいやしてくれる。そして、すべては忘れられる。

あなたがわたしを愛する日、華やかなバラたちは、いちばん素適な色の晴れ着で飾る。風に向かって鐘たちが、あなたがもうわたしのものだと言え、あなたの愛のことを語り合う。

あなたがわたしを愛する日、この世には調和が満ち、

朝の光は澄みきって、泉は楽しげに湧き出し、水晶の歌をうたう。そよ風はメロディのさざめきを運んでくる。歌い手の小鳥の声はさらに甘くなり、人生に花が咲き、痛みは存在しなくなる。

あなたがわたしを愛する夜、空の青い深みから、嫉妬ぶかい星たちが、通り過ぎるわたしたちを見ているだろう。そして神秘の光線が、あなたの髪にやどる。まるで、なんでも見たがるホタル——その光は見とどける、あなたが、わたしのなぐさめだと。

ごいっしょに時間をすごしていただきありがとうございます。
またお会いするのを楽しみにしております。今後どうぞよろしく。

選曲・構成：峰 万里恵
プログラム作成：高場 将美

● 次のライブは

5月15日(土) 19:00～ (開店18時)

“アルモドバル映画で輝いた歌たち”

…… スペインのペドロ・アルモドバル監督の映画では、いつも個性豊かな、数々の歌がサウンドトラックに使われています。知る人ぞ知る名曲や、忘れられていた古い歌を、彼の記憶のなかから発掘して、観客の思いもよらない場面に使って、映画と歌の両方に新しい生命を与えて輝かせます。

…… 峰 万里恵は、アルモドバルの最新作『抱擁のかげら』を見て、もうがまんできず、ずっと以前からやりたかったこの企画を実現することにしました。この映画では、たぶん60年くらい前のフラメンコ調歌謡『ア・シエガス (暗闇の愛)』が使われています。初めて聴いた曲ですが、作者の詩人と作曲家は、峰万里恵とおなじみの人たちです (もちろん、曲を通じて、ですが)。さっそくうたいます!

…… アルモドバル監督が選曲した名曲集! タンゴでは『ボルベール (帰郷)』が出てきます。その他、スペイン、メキシコ、ブラジル、ベネズエラの、それぞれに魅力いっぱいのお歌ばかりです。たっぷり楽しんでいただくと信じています。

きょうと同じ、峰=高場のふたりで、おいでをお待ちしております。

スペイン・バル *Olé* (オレ)

新宿区高田馬場 3-12-27-105

TEL & FAX: 03-3364-3466

チャージ1500円+通常のご飲食料金

* 手作りのタパス(スペイン小皿料理)、パエジャ、そして各種スペイン・ワインなどがおいしく、良心的なお値段で、いつもご好評をいただいているお店です。

● 峰 万里恵

<http://marie-mine.web.fc2.com/>

➡ ご予約はお店に、または峰 万里恵まで—— tel: 03-3479-2420 fax: 03-3235-0470
e-mail: marie-mine@hotmail.co.jp